

[ 普及事項 ]

新技術名： リンゴ台木 J M 7 を利用した接ぎ木挿し法による短期良苗生産  
- 接ぎ木作業の時期と挿し木床の影響について - (平成11～14年)

研究機関名 果樹試験場栽培部栽培担当  
環境部土壌肥料担当  
担 当 者 森田 泉・平良木朱美 他5名

[ 要約 ]

リンゴ台木 J M 7 を利用した接ぎ木挿し法で短期間に苗木を作る条件を明らかにした。台木に穂品種を接ぎ木する時期は3月初めとし、挿し木時期は4月中旬とする。また、挿し木床はリンゴ作の跡地は避ける。これにより約9か月間で良苗率80%の生産が可能となった。

[ ねらい ]

現在、樹齢が15年生を越えるわい化栽培では、樹齢の進行に伴い収量・品質の低下を招いている。しかし、改植による問題解決には経費がかさむことから、苗木の育成期間短縮と経費軽減が急務である。このため苗木育成にかかる資材と経費を最小限にすることが求められ、挿し木繁殖に優れた J M 台木を利用した苗木生産技術の条件を明らかにする。

[ 技術の内容・特徴 ]

1. J M 7 台木を3月上旬に40cmの長さに調整し、穂品種を2芽で切り接ぎする。調整した穂木は乾燥しないようにし、挿し木時期まで0～2で保存する(図1、2)。
2. 挿し木床の前作はリンゴ園を避け、挿し床に黒ポリマルチを敷設し、4月中旬(発芽期から展葉期頃まで)に台木部分を床土に垂直して20cm挿し込む(図1、3、4)。
3. 挿し木後は挿し床が乾燥しないよう梅雨入り頃まで適宜かん水する(pF2.0以下を保つ)。
4. 穂品種が活着し新梢伸長が盛んになったら窒素成分主体の液肥を5回程度散布する。
5. 台木から発生した新梢は6月上旬頃から適宜せん去する。
6. 接ぎ木挿し法では、落葉までの約9か月間で苗木の育成が可能であり、育成2年目では通常法で育成した苗木より頂芽数が多くなり、早期成園化が期待される(表1、図5)。

[ 普及対象範囲 ]

県内全域

[ 普及・参考上の留意事項 ]

1. J M 7 の採穂時期は落葉期(12月初め)から休眠覚醒前(3月初め)とする。
2. 挿し木に使用する J M 7 の穂木は新梢先端部(全長の1/3程度)は発根率が低いので使用しない。
3. 挿し木作業直前に台木の先端部分をオキベロン4倍液に約10秒間浸漬する。
4. 穂品種の新梢伸長に伴い支柱などに結束して到伏を防止しする。

[ 具体的なデータ等 ]

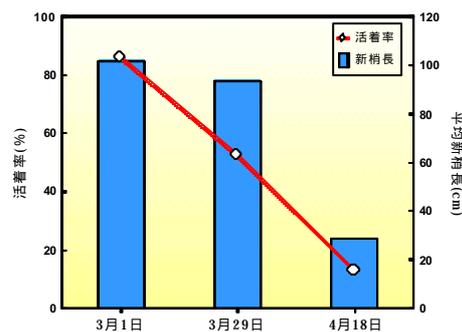
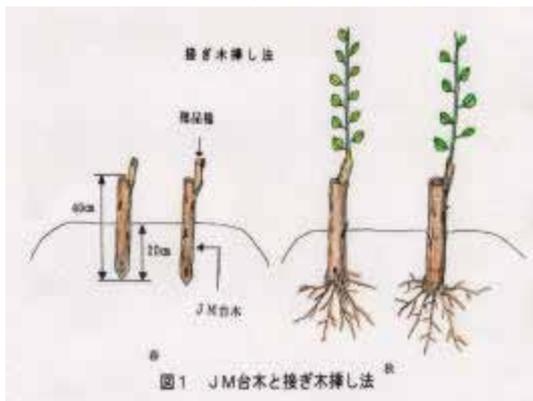


図2 ふじ/J M 7の接ぎ木時期別活着率と平均新梢長(2001)

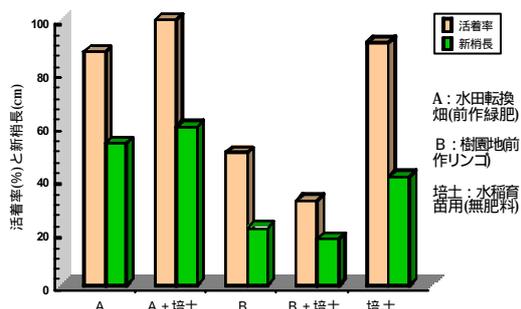
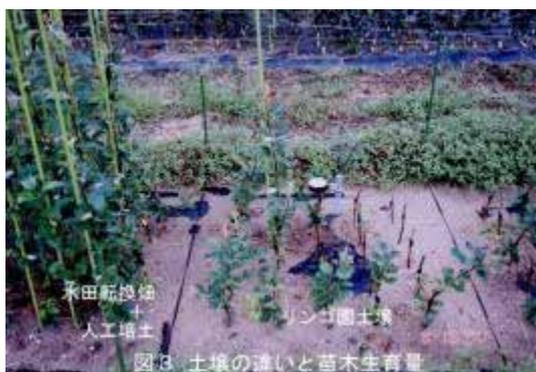


図4 挿し木床土壌の前作物と生育の関係(2000)



表1 接ぎ木挿し法と通常法の苗木生育量の違い(2002)

苗木育成方法	樹高(cm)	幹径(mm) <sup>Y</sup>	新梢長(mm)	頂芽数(個)
接ぎ木挿し法	198.3 ± 20.6	13.1 ± 1.5	126.7 ± 21.8	3.4 ± 1.9
通常法 <sup>Z</sup>	192.1 ± 19.8	10.5 ± 2.6	164.8 ± 19.8	1 ± 0

<sup>Z</sup> 台木養成に1年、その翌年の春に穂品種を切り接ぎする方法

<sup>Y</sup> 接ぎ木部から10cm上の位置

[ 発表文献等 ]